

はじめに

札幌市衛生研究所は、昭和 37 年（1962 年）に公衆衛生の向上を図ることを目的として設置されて以来、感染症のまん延防止、母子関連疾病の早期発見、食の安全や大気・水質環境の確保等のため、保健衛生及び環境保全行政の科学的・技術的拠点として試験検査・調査研究を行ってまいりました。

令和 6 年（2024 年）1 月 1 日、能登半島を震源とする「令和 6 年能登半島地震」が発生しました。未だ避難を続けられている皆様には謹んでお見舞い申し上げますとともに、現地において復旧に向け活動されている方々に対して敬意を表し、一刻も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。

地震などの自然災害においては、日頃から防災対策をしておくことで被害を少なくすることができます。感染症危機対策においても、同様に平時からの準備が大切です。当所におきましては、ウイルス感染症の研究機関として、感染拡大の防止に関して重要な役割を担うとともに、平時の準備から流行期まで対応できる体制を構築し、応援体制の強化も必要と考えています。

これからも、札幌市民の健康と安全の維持に寄与すべく、検査技術の研鑽・向上に努めるとともに新たな検査技術を修得し、国や他自治体の研究機関との連携強化を図り、全力で対応していく所存でありますので、関係各位のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

ここに札幌市衛生研究所年報第 51 号をお届けいたします。

令和 5 年度の当所における日常業務及び調査研究の成果であり、皆様方にはご一読のうえ、お気づきの点があればご指導のほどよろしく願いいたします。

令和 6 年（2024 年）11 月

札幌市衛生研究所長 八田 智宏